

がんばる農家プラン事業

日南トマト加工株式会社ステップアッププラン

作成年月 平成26年7月

作成者 日南トマト加工株式会社



## 日南トマト加工株式会社ステップアッププラン

作 成 者 日南トマト加工株式会社

代表取締役 内田章久

事 業 主 体 日南トマト加工株式会社

### はじめに(プラン作成に至った経緯)

トマト生産においては、多くの規格外品が出ます。以前は、ほとんどの生産者が近所に配るか廃棄処分をしていました。

これを少しでもお金にすることが出来ないか、付加価値を付けて少しでも農家の所得を増やすことは出来ないか、という思いで平成19年7月にトマト農家6名が出資し、日南トマト加工株式会社を設立しました。

平成25年からは自社でトマト栽培を開始し、加工原料の一部を自社で調達すると共に、トマトの青果についてもJA等へ出荷しております。また、平成26年には認定農業者となり、農業生産の拡大も計画しているところです。

弊社は、『地元産にこだわり、食品添加物を一切使わない安心・安全な商品を消費者に届けること』と、『会社・働く人・トマトを提供して下さる農家が共に潤うこと』を目的としています。

日南町のトマト生産が拡大しないと、ジュースの原料も集まらず、弊社の発展もないので、日南町トマト生産部と協調しながらトマト生産にも力を入れていきたいと考えています。

弊社に寄せられた生産者の声、消費者の声の一部を紹介します。

#### 【生産者の声】

・規格外のトマトがお金にかわり、とても助かっています。おかげで、折角育てたのに無駄になるトマトがなくなりました。今後は産地振興のために、今まで以上の販売促進やPR活動、また新しい商品の開発などにも頑張りたいと思います。

#### 【消費者の声】

・我が家では御社のトマトジュースに出会ってからトマトジュースの概念が変わってしまい、もう他の商品は飲めなくなりました。大丸ピーコックからイオンになったときに日南のトマトジュースがもう手に入らないのかな、と心配しましたが、イオンでも買えるようになって安心して毎日飲んでます。ありがとうございます。

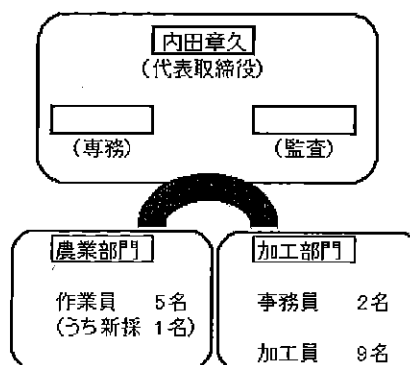
弊社のトマト農場は23a(H25)の規模がありますが、かん水方式は慣行のバルブかん水のため、非常に手間がかかるのが現状です。この方式のままですと、今後の面積拡大も思うようになりません。そこで、養液土耕システムを導入し、かん水にかかる労力を軽減し、規模拡大を目指すべく、事業の活用をすることに決めました。

# 1 現状と課題

○日南町トマト加工株式会社の経営概要

(第1表)会社概要(H25)

資本金	880万円
法人設立	平成19年7月31日
事業年度	1月から12月
出資者数	12人
経営面積	23a
事業内容	農産物の生産(トマト) 農産物加工(トマトジュース他)
所在地	事務所:日南町霞740番地 加工所:日南町霞740番地 農場:日南町福塚



(第1図) 日南トマト加工株式会社会社組織図

## 1) 農業部門の現状と課題

### (1) 農業生産部門の現状 (H25)

- ・経営規模 夏秋トマト 売上 万円
- ・業務内容 共選出荷を主体にアスパル等直販。規格外をトマトジュース等加工品。
- ・所有資産
 

ハウス	6棟 (23a)
中古トラクター	1台
管理機	1台
- ・労働力
 

従業員	1名
パート	4名
合計	5名

### (2) 課題

- ・省力化

現在、福塚のトマト農場はハウス4棟と2棟が少し離れているためにポンプ2台でかん水と追肥をしています。各ハウスごとにかん水、追肥を行っており、非常に労力と時間を費やしています。具体的には、かん水を行うため、バルブの開閉に6棟で50分位かかり、1人役張り付きます。毎日のことなのでかなりの負担となります。時間を計りながらバルブの開閉をしなければならぬので、収穫が忙しくなると早朝には取りかかることが出来ず昼頃になったり、最悪の場合、かん水できない事もあります。

- ・収量向上

苗が悪かった影響もありますが、平成25年度は初めてのトマト栽培であることや、主力の男性労働力2名が素人であったことから、作業に手間取り、適期の管理ができずに収量が伸びませんでした。

【参考】 加工部門の現状と課題について

(1) 現状

・経営規模	売上	万円 (H25)	
・業務内容	清涼飲料水 ソース類 菓子 惣菜	} 製造業	
・所有資産	ガス回転釜		1台
	フィニッシャー		1台
	蒸気滅菌庫		1台
	ボイラー	1台	
	加工充填機	1台	
	打栓機	1台	
・労働力	パート	事務 2人	
	パート	加工 9人	
	合計	11名	

(2) 課題

・生産能力の低下

8月のピーク時に原料のトマトが大量に集まったときに加工が追いつかずにせっかく買い入れた貴重なトマトを腐らせて廃棄する場合があります。

加工品の種類が増えてきたので、機器の数が増え、手狭になり能率が悪くなっています。

販売量が増加し、原料のトマトが足りなくなる恐れがありましたが、今年は自社でトマト栽培を始めたので、さしあたっての心配なくなりました。

・資材置き場

現在の加工所には倉庫がなく、ビン・ダンボール等は10km離れた上石見のJAの米倉庫を借りており、必要量をその都度軽トラックで運んでいます。

製品はJAの倉庫の他、霞・生山に倉庫を借りて保管しており、1日に出来た品は翌日には倉庫に運ばれなければ次の製造が出来ません。

(3) 目標と改善

将来的には加工施設の合理化を行うことで、加工部門の事業拡大も行いたいと考えております。

## 2 目標と改善内容

(第2表)目標値

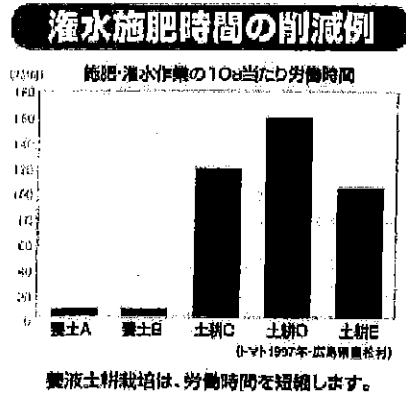
項目	H25 (現状)	H26	H27	H28	H29
トマト規模拡大(a)	23	35	35	35	35
トマト反収向上(t/10a)	7.8	8.3	8.7	9.2	9.7
トマト青果売上増加(千円)					

○課題に対する改善

養液土耕システム導入で次のことが改善出来る

### ①省力化

養液土耕システムの導入ができれば、かん水・追肥が時間と量を設定しておけば自動になるので、1時間近く人が張り付いていなくても良くなるので、大幅な省力化となります。他の作業をすることが可能となり面積拡大も見込めます(右図参照)。

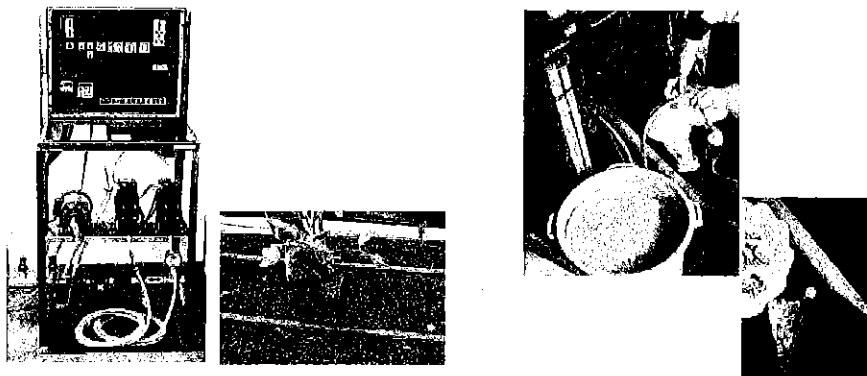


### ②反収向上

これまで、かん水、液肥を行うために費やしていた時間を他の作業(ホルモン処理、脇芽とり、摘果、防除等)に注力することで、より収量が向上することが期待できます。

### ③規模拡大

現在の慣行のかん水方法では反収向上を図りながら規模拡大するには労力が不足しております。将来的には福塚の農場は更に増反する計画であり、そのためにも養液土耕は不可欠と考えます。



(写真1) 養液土耕システム(左)と慣行の液肥装置(右)

### 3 目標達成に向けての取り組み (年次別の行動計画)

(第3表) 年次別行動計画

項目	内容	H25 (現状)	H26	H27	H28	H29
養液土耕導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎			
規模拡大	既存のハウスを借入	○	○			
雇用確保	農の雇用事業により確保		○			
農産物生産	青果及び、加工原料の自社生産	○	○	○	○	○

◎: 県、町の支援が必要なもの ○: 事業主体が取り組むもの

### 4 支援事業の内容

(第4表) 支援事業の内容

(単位: 円(税抜き))

年度	内容	事業費	県(1/3)	町(1/6)	事業主体(1/2)
H26	養液土耕導入	2,016,570	672,190	336,095	1,008,285

### 5 事業の効果 (地域への波及効果)

#### (1) トマト産地維持への貢献

近年、日南町のトマト栽培者は高齢化が進んでおり、生産者数は減少傾向にあります。この1、2年は町の研修生の就農によりなんとか現状が維持されている状況です。

弊社の養液土耕システムの導入により、生産効率が上がって経営が良くなってきますと、今後も若い後継者を新規に正規社員として雇用したり、パートを増員したりして、規模拡大を図りトマト産地維持に貢献することができます。

#### (2) 地域の雇用創出への貢献

また、弊社でトマト栽培の規模拡大を図ることで、ジュースやその他の加工品も増産が出来るようになり、加工場の年間稼働率も上がり、雇用の拡大につながる事が期待できます。生産性が高まることで、コストダウンが可能となり、現在少しずつやっているOEMについても競争力が上がり、受注の増大が見込めます。